

### 第3章 産業廃棄物の処分実績報告書（様式第28号）の集計結果

#### 第1節 産業廃棄物処理業者の処分量

##### 1. 処分量の推移

平成25年度の産業廃棄物処理業者の処分量は5,886千トンである。この内、中間処理量が5,491千トン、最終処分量が395千トンとなっている。東日本大震災の復旧工事の影響により、平成23年度以降大幅に増加している。

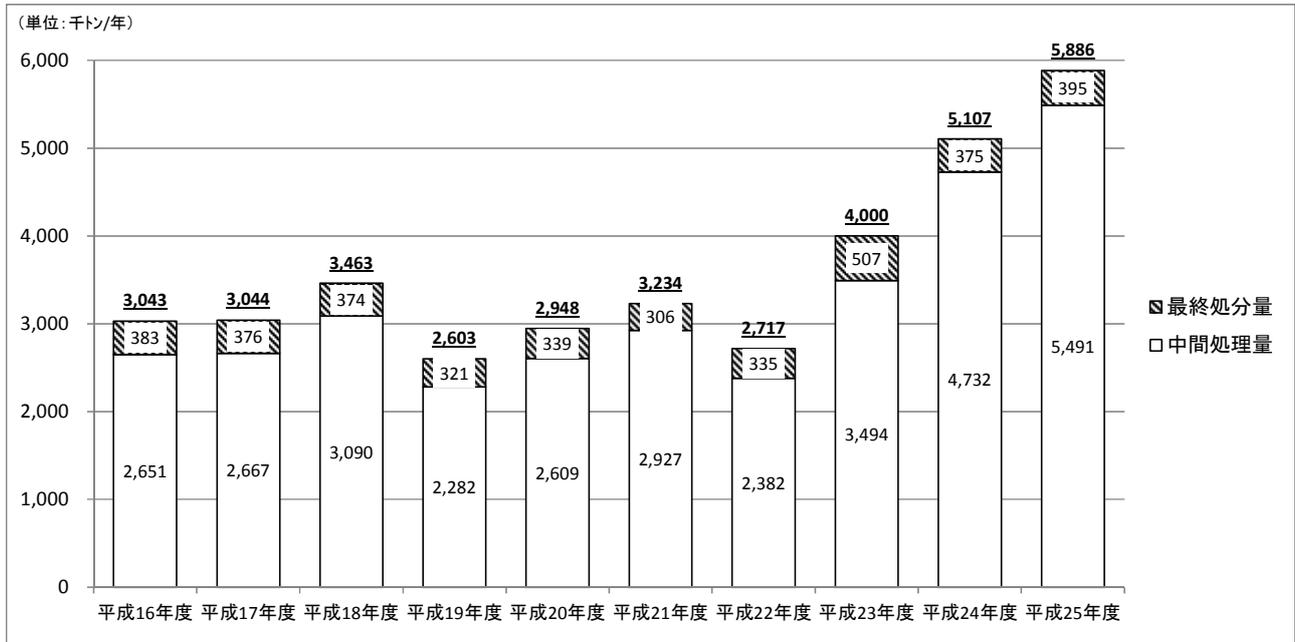


図3-1-1 処分量の推移

##### 2. 処分方法別の中間処理量

産業廃棄物処理業者の中間処理量を処分方法別にみると、「破碎・圧縮」が4,684千トン（85.3%）で最も多く、次いで、「焼却」が218千トン（4.0%）、「固化・造粒固化」が207千トン（3.8%）等となっている。

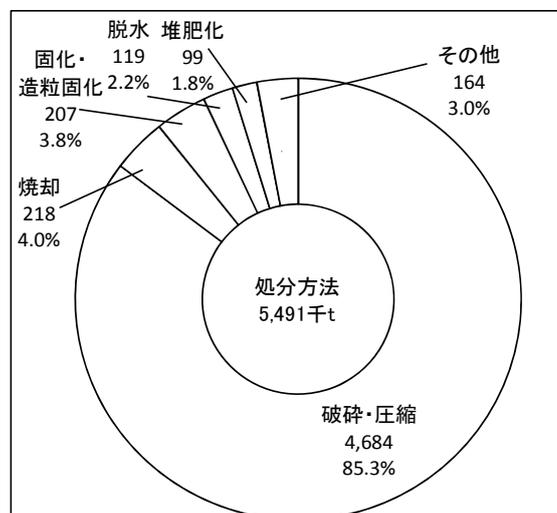


図3-1-2 処分方法別の処分量

### 3. 廃棄物種類別の処分量

処分量を種類別にみると、中間処理量では、がれき類が 3,222 千トン（58.7%）で最も多く、次いで、廃プラスチック類が 910 千トン（16.6%）、汚泥が 597 千トン（10.9%）等となっている。最終処分量では、廃プラスチック類が 106 千トン（26.8%）で最も多く、次いで、ガラス陶磁器くずが 84 千トン（21.3%）、がれき類が 57 千トン（14.5%）等となっている。

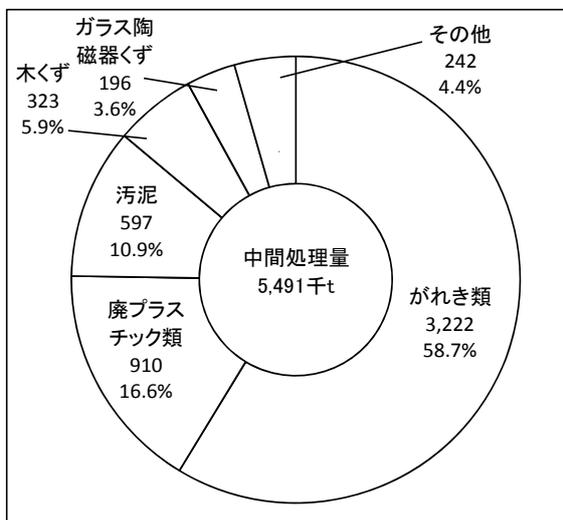


図 3-1-3 種類別の中間処理量

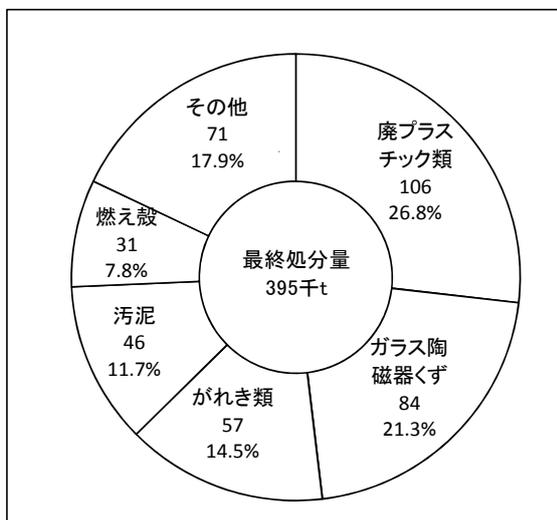


図 3-1-4 種類別の最終処分量

## 第 2 節 県外から県内への搬入量

### 1. 県内搬入量の推移

平成 25 年度の県内搬入量は、453 千トンである。この内、中間処理目的が 254 千トン、最終処分目的が 199 千トンとなっている。平成 24 年度と比較すると中間処理量が 71 千トン減少し、最終処分量が 29 千トン増加している。

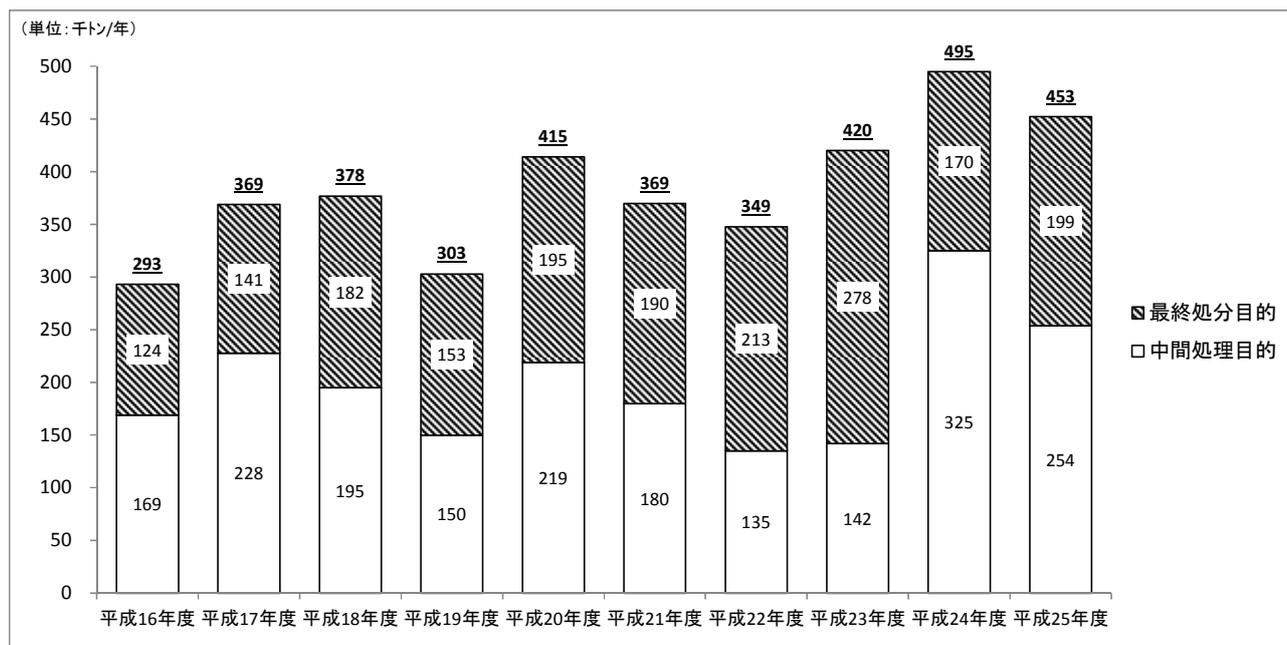


図 3-2-1 県内搬入量の推移

## 2. 種類別の県内搬入量

県内搬入量を種類別にみると、中間処理目的では、廃プラスチック類が 132 千トン(52.1%)で最も多く、次いで、がれき類が 31 千トン (12.3%)、汚泥が 28 千トン (11.2%) 等となっている。最終処分目的では、廃プラスチック類が 68 千トン (34.3%) で最も多く、次いで、汚泥が 34 千トン (16.9%)、ガラス陶磁器くずが 24 千トン (12.1%) 等となっている。

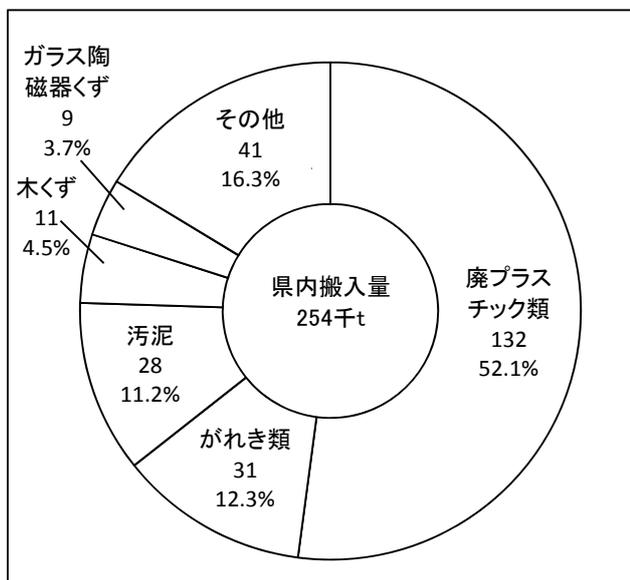


図 3-2-2 種類別の県内搬入量 (中間処理目的)

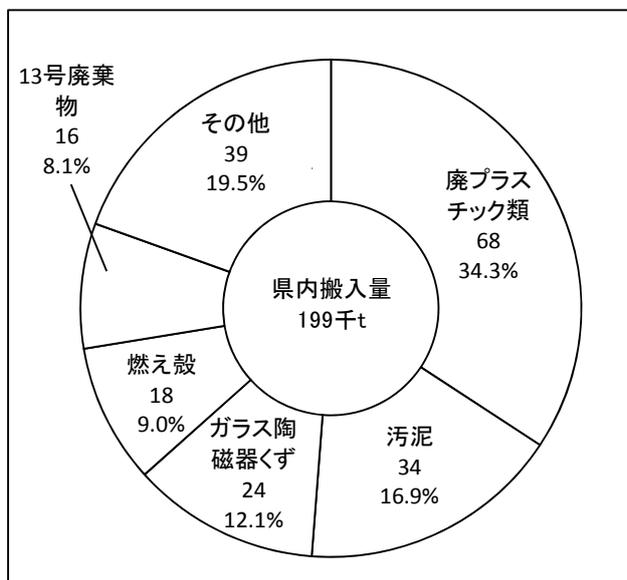


図 3-2-3 種類別の県内搬入量 (最終処分目的)

## 3. 搬出地域別の県内搬入量

中間処理目的の県内搬入量を地域別にみると、東北が 214 千トン (84.2%) で最も多く、次いで、関東が 33 千トン (13.0%) 等となっている。最終処分目的の県内搬入量を地域別にみると関東が 180 千トン (90.5%) で最も多く、次いで、中部が 10 千トン (5.1%)、東北が 9 千トン (4.3%) となっている。

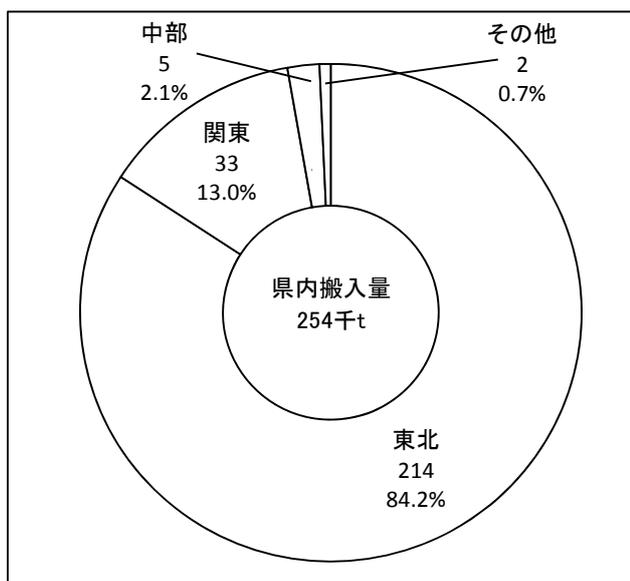


図 3-2-4 地域別の県内搬入量 (中間処理目的)

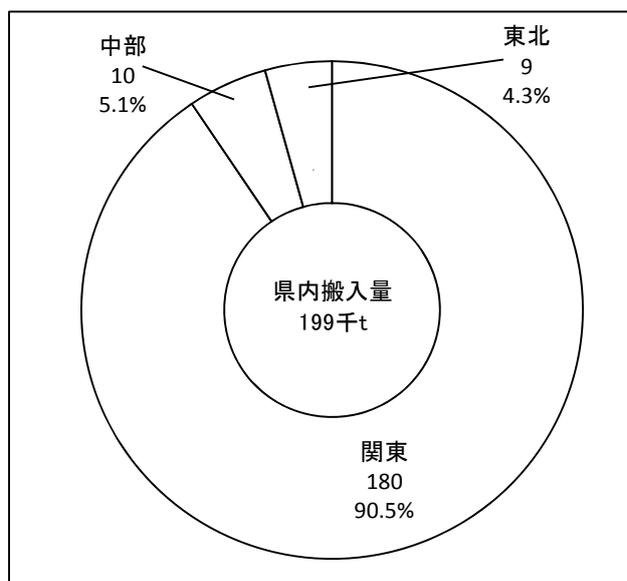


図 3-2-5 地域別の県内搬入量 (最終処分目的)